

領域	分掌名	自己評価			学校関係者評価		総括
		評価（目標の達成度・実施状況等）	総 括	次年度への課題・改善点	意 見	次年度への改善点	改善方策
学校経営	学校経営	○教育方針や教育活動を分かりやすく伝えようとしていますか。 学校説明会・見学会の実施やHPの工夫に取り組んだ。 学校更には、今年度より、市内中学校への配布を始めた。	・HPに掲載した「一校一キラッ！」が県の優秀賞を受賞した。 ・保護者会等における教育方針・学校運営の説明の機会を一層拡充すべきである。	○異校種を含めた他校のHPを参照し、より見やすく、魅力あるHPを作成する。 ○今年度以上に様々な場を活用し、管理職が情報発信に取り組む。 ○平成29年度の本校の第一次完成に向けて、「湖北ならではの特色ある具体的な取組」を行う。 ○平成30年度以降「特支援生の減り期」を見据え、職員員の意識改革と生徒募集の具体的な方策を提示する。 ○グラントへ降下するための施策の調査をする。	○受検に出る機会が増える学校になることが大切である。 この地域では、普通科・職業コース・専門学科のある特別支援学校は、すべて形式（普通科・分科・分教室・二学科併置等）が違うので、メリットや長所を前面に出すことが必要である。 ○大学との連携等の取り組みはなかった。 ○特別支援学級との関わりも有難かった。 ○福祉サービス事業所との連携も盛り込んでほしい。 ○湖北地区公民館事務の方より、学修紹介や作品展示、公民館イベントへの参加が希望していた。学校が地域へどのような働きかけをしているか不明で、地域の人々から見てもらえればチャンスである。 ○学校運営の基盤が確実に出来ている。 「要約」は自覚されたものであり、「コース」は必ずしも自覚されておらず、掘り起こすものである。普通科の生徒にも専門学科の取組を体験させる余地を確保すること	○「特色づくり」や「PR」をしっかりとしていくこと。 ○「縦」と「横」の連携を重視してもらいたい。	○「大学との連携」の継続と「発展」に取り組む。 ○地域の異校種や施設・関係機関との連携を深める取組を実施する。 ○進路先に選ばれる「魅力ある学校づくり」の「新たな具体的な取組」を実施する。
		○学校が保護者の願いに応えた教育活動を行っていますか。 県民に期待され、また他県からも視察いただける「本校の特長」を踏まえた独自性ある学校づくりを段階的に行っている。 二学科併置校としての円滑な学校運営に向け、具体的な取組を行ってきた。 施設・設備関係については、県の予算に關係する部署との協議を重ねつつ対応を検討してきた。	・二学科併置体制を勘案し、組織の改編を行ったが、概ね円滑に機能してきた。 ・県内初の「特別支援学校と大学の連携」による取組にも着手した。発展的に取り組めるよう、更に創意工夫を重ねていくべきである。 ・体育館の屋根の補修・廊下の結露問題等について、予算との関係で最大限の対応を行った。	○「業務改善」と「残業時間の削減」を徹底して行う。		○生徒の自活・自立を図る取組が重要である。	○関係分掌（研究研修部・生徒指導部）で、「主権者教育」に係る取組を実施させる。
		※職員のモラルアップの推進及び危機管理については、良好である。	・「ヒヤリ」の段階で、意識喚起を行い、大きな事件・事故には発展しなかった。 不祥事ゼロ・休職ゼロである。				
学習指導関係	教務部	○「個別の指導計画」や「通知表」が適切に把握して作成されているか。 概ねできている。書式については、専門学科が開設され、専門学科に即したものを作成した。	・二学科併置体制が始まり、試行錯誤しながらの運営となった。細部においては改善点があるが、全体としては概ね円滑に進めることができた。 ・アンケート結果において、保護者の高評価3項目に、『「個別の指導計画」や「通知表」が適切に把握して作成されているか。』『一人一人に合った学習内容で、楽しく、わかりやすい授業が行われているか。』の2項目が挙げられた。保護者に、今年度のやり方が理解されている結果となったと考える。 一方、参観日については、改善を必要とする意見があった。 ・教職員の協力連携については、二学科併置に伴い、「湖北らしさ」を考え、合同の授業や行事などを実施した。初めてのことで計画段階での意思統一など、課題は多くあったが、適宜、計画の修正や体制を整えることで問題なく進めることができている。	○「個別の指導計画」や「通知表」に関して、学科の実情に合致した書式の見直しを行う。 ○二学科の日課（始業・終業時刻が異なる）の問題もあり、全校・学科をまたぐ「打合せ・会議」が持ちにくい。 必要な話し合いの時間を確保できるような業務改善・協力を促す。 ○授業参観・保護者会の持ち方・回数を改善する。	○「指導計画」「通知表」「授業」「連携協力した指導」などについて、まだまだ真長ろうという先生方の意識に感謝の気持ちが高まった。 ○二学科になっても、企業就労希望者がいること、普通科の授業では「ここまでしかできない。」というところのないようにして欲しい。	○授業参観日を一日だけでなく、参観週間をして数日設定してもらえると、保護者が来校しやすくなるので検討してもらいたい。	○授業参観週間を設け、複数の参観日を設定する。 ○保護者会・各種説明会の日時設定を考慮し、専門学科の一日実習日に合わせ、『スペースH I B I R I』の利用や生徒の活動を見ていただく機会を拡充する。
		○一人一人に合った学習内容で、楽しく、わかりやすい授業が行われているか。 概ねできている。					
		○教職員が協力連携して指導にあたっているか。 各学科、学年等の集団では連携が図られている。 二学科間での連携については、検討を要する。					
生徒指導	生徒指導部	○生徒ひとり一人の実態に応じた生徒指導を行っているか。 ・個々の課題や学校及び社会生活の中で起こった問題や課題について、担任との迅速な情報交換を行い、迅速に個々に応じた生徒指導を行った。 ○卒業後の生活を見据えた、自力移動のスキルの習得を目指した通学指導ができているか。 ・流通サービス科については、駅や列車内のマナー等、社会参加を見据えた継続的な指導が少なかった。	・生徒一人一人に応じた生徒指導ではあったが、指導の細部については、指導部と担任間の共通理解といった面で不十分な面も見られた。 ・普通科の通学指導については、継続的な指導ができた。 ・流通サービス科の通学指導では、駅構内や車内でのマナーアップの指導など、組織的に行うことができなかった。 ・スクールバスの運営については、家庭の要望に対して迅速に対応した。契約の制限があるため、十分に配慮できたかは疑問も残る。年度末のバス利用保護者アンケートで要望について聞いていきたい。	○生徒指導の意義や本校の方針、生徒に指導する内容や事柄について、教員間の共通理解を図る場を多く設ける。 ○流通サービス科の通学指導について、駅前での登校指導・駅構内でのマナーの指導・列車内でのマナーアップ指導など、月や学期単位で計画的に実施する。 ○次年度は、バス運営業者も変わらないので、新規利用の入学者を見据えたコースやバス停の設定を早期に実施する。	○登下校の様子（隊列を組んで通学している）がよい。しっかりと指導できている。	○登下校指導・列車指導などでも、異校種との連携を図るとよい。	○流通サービス科の通学指導を計画的に実施する。 近隣高等学校との情報交換を密にし、列習指導等を効果的に実施する。
		○生徒の実態及び家庭の要望を配慮したスクールバスの運営を行っているか。 ・バス停の設定や運行コース、距離に制約はあるが、保護者の要望に対しては迅速に対応した。					
		○両学科併置の特性を生かした生徒会活動が行われているか。 ・二学科併置の特性を生かせるよう時間を作り、活動や行事を行った。 ○生徒の人権に対する自分や他人を尊重し、大切にする意識作りが行われているか。 ・決まりやルールを守ること、協力し互いに尊重しあう学校生活について、生徒指導担当が話をし、HRで学習する形で取り組んだ。	・生徒会活動については、日課表の関係もあり、現状で可能な活動を行ってきた。今年度からの取り組みでもあり、今年度の検証を行い次年度につなげていきたい。 ・人権の尊重をはかり、いじめのない生活の確立のため2回のアンケートを実施した。悪ふざけや他人を不快にする言動、他人の気持ちを考えることについて指導を行った。	○生徒会活動については、二学科併置の特性を生かした具体的な活動を展開する。 ○人権については、「職員研修の実施」と継続した指導を行う。			